

市川市 国府台遺跡 (第 13 地点)

国府台遺跡は市川市の西側、江戸川に面した台地上に位置し、古代に下総国府(しもふきこくふ)が置かれていました。今回の調査地点は、国府の中心となる施設(国庁)があったと推定される場所から北に 500m ほど離れた場所で、約 500 m<sup>2</sup>の狭い範囲ながら竪穴住居跡が 14 軒、掘立柱建物跡(ほったてばしらたてもものあと)が 2 棟、土坑(どこう)が 2 基と多数の遺構が検出されました。

遺構(いこう)は 8 世紀後半から 9 世紀前半のものが主体で、国府の存続した時期に含まれます。竪穴住居跡の規模や構造などは、通常集落遺跡で発掘されるものと大きく変わりませんが、灯明皿(とうみょうざら)として使われた杯(つき)や墨書土器(ぼくしょどき)、漆と思われる物質が付着した杯、転用硯(てんようけん)、灰釉陶器(かいゆうとうき)など、国府に関連すると思われる遺物が多く出土しています。特に 8 世紀末から 9 世紀初頭と考えられる竪穴住居跡から鑄造された鉄鍋(てつなべ)が出土しましたが、この時期のもので器形全体がわかる発掘資料は全国的にも少なく貴重な事例と言えます。また、多量のスラグ(※)やスラグが付着した土器片が出土した竪穴住居跡は、鍛冶(かじ)に関わる遺構と推測されます。

10 世紀前半と考えられる土坑からは、布や木が付着した板状の鉄製品とともに集積された土器が出土し、何らかの埋納(まいのう)を行った可能性があります。

※鉄滓(てつさい)のこと。→鉄を溶かした時に出る不純物



8 世紀後半と考えられる竪穴住居跡 (ハマグリ・カキを主体とする貝ブロックが検出された)



### 8世紀末～9世紀初頭の 竪穴住居跡

左上隅はカマドと掘立柱建物  
跡の柱穴。



### 遺物出土状況

左下に鑄造された鉄製の鍋、そ  
のすぐ上に須恵器(すえき)の杯  
蓋(つきふた)、右上に転用硯。



### 鑄造された鉄製の鍋

修復中(上が底面)。



集積された土器の拡大写真 上で寝ているのが土師器(はじき)の高台(こうだい)のある坏、右側には土師器の杯が3点。下で寝ているのは須恵器長頸瓶(ちょうけいへい)。



土器が集積されていた土坑 中央には板状鉄製品、奥は竪穴住居跡。